

第3章

寄宿舎の研究

1 研究の概要

(1) 研究主題

「卒後を見据えた生活力を高める指導」

(2) 設定理由

第7次研究での寄宿舎研究では、自己認知能力、コミュニケーション能力の向上と共に生活の自己管理能力の向上が卒業生に求められる状況から、行動の意義を十分に理解した上で自分らしい生き方を実践できるよう、自己管理能力を高める生活指導を目指し「卒後を見据えた生活力を高める指導」を研究主題として研究を行っている。

昨年度の研究では、対象生徒個々の課題について実態に応じた指導により、それぞれ生活力についての成長、成果が得られた。しかし、個々に特化していたことから、捉えた課題が多岐に渡り、行動の意義の理解や自己管理能力についての検証に焦点を絞ることが難しかった点が反省に挙げられた。行動の意義の理解、自分の行動やコミュニケーションの仕方を振り返ることは、生徒のメタ認知の育成につながると考える。学年、学科が入り組み、学生生活の中では多様な人間関係である寄宿舎では、コミュニケーションについてのメタ認知を育てることが重要であることから、特にコミュニケーション能力に重点をおくこととした。

今年度は、コミュニケーション能力育成の指導法について検証すると共に、コミュニケーション能力の育成と、生徒が自分の行動を振り返ることや考えを深めることを通して、ルールを守ることや規則正しく生活することなど基本となる生活力の向上につながるのではないかと考える。

(3) 研究の内容と方法

① 全体研修での共通理解

- ・学校で行われる全体研修会へ参加し、理解を深める。

② 事例研究

- ・指導観点に基づき、コミュニケーションに関わる課題を持つ生徒を対象とし、男子棟をA～Cグループ、女子棟をD～Eグループに分け、各グループで協議、考察を行う。
- ・研究主題は「卒後を見据えた生活力を高める指導」とし、卒業後に活かされるコミュニケーション能力の獲得を目指した指導を実践していくと共に、コミュニケーションの指導を通し、生活力の向上が図られていくか考察する。
- ・個別の指導計画で出された手立てに沿って指導を進めると共に、グループ内で考察し必要と思われる指導について進めていく。
- ・グループで協議した内容を研修部で集約し、全体で考察をする。

(4) 推進日程

- 5月…対象生徒抽出
- 6月…グループ協議、寄宿舎研修会議（全体発表・協議）
- 9月…グループ協議(指導経過)
- 10月…寄宿舎研修会議（中間発表・協議）
- 1月…グループ協議(結果及び考察)
- 2月…最終報告

2 研究の実際

(1) 実態の整理

コミュニケーション能力に関する寄宿舍での指導について、寄宿舍での指導の指標である指導観点の項目に照らし合わせると

○礼儀作法・言葉遣い(挨拶) ○交際 ○集団生活
が合致する。

寄宿舍で作成している個別の指導計画について、上記項目の中からコミュニケーション能力に関して課題を持つ生徒の実態について整理したところ、

○相手や場を理解することができる

○伝える力

について、困難を抱える生徒が多いことが分かった。(資料1 参照)

「相手や場を理解することができる」「伝える力」を観点として、実態を見ていくこととして、各グループからそれぞれ対象生徒を下記のとおり抽出した。

①相手や場を理解する	
グループ	実態（個別の指導計画より）
Aグループ（生徒A）	思ったことや感じたことを何でも話すことでトラブルになることがある
Bグループ（生徒B）	相手に対して不快感を与えるような発言をしてしまうときがある。
Cグループ（生徒C）	目上の人に対し、敬語を使って話すことが難しいことがある。
Dグループ（生徒D）	時と場に応じた言葉遣いや、挨拶をすることが難しい。
Eグループ（生徒E）	その場にはいない他生徒のことで不適切な発言をする。

②伝える力	
グループ	実態（個別の指導計画より）
Aグループ（生徒F）	自分の意見や考え、困ったことなどを適切に伝えることが難しい
Bグループ（生徒G）	自主的に挨拶が難しい。
Cグループ（生徒H）	自分の意見を伝えられないことがある。
Dグループ（生徒I）	会話内容を理解することが難しく、また自分の発言に自信がないために他生徒と積極的に関わることが難しいことがある。
Eグループ（生徒J）	返事や挨拶をする際にうなずくだけで済ましてしまうことがある。

(2) 指導の手立て

対象生徒についてグループで協議し、個別の指導計画を基にそれぞれの実態とコミュニケーション能力に関わる指導の手立てについての理解を共有すると共に、①「相手や場を理解する」
②「伝える力」を観点として、個人の実態と観点に関する手立てについて検討を行った。(資料2 参照)

①「相手や場を理解する」

個別指導計画や観点から実態を検証すると

- ・相手の気持ちを推測することが難しい。

- ・コミュニケーションの取り方として不適切な行動をとる。
- ・自己中心性の強い行動がある。

という実態が、複数の生徒に該当する。

手立てとしては、それぞれの実態に応じ、指導の場面や理解の進め方などに違いはあるが、大きく分類すると

- ・自分の発言について、適切であるかや相手はどう感じるかを考えさせる。
- ・必要性やモラルなど根拠について教える。
- ・適切な表現を教える。

という指導が進められる。

②「伝える力」

個別指導計画や観点からの実態を検証すると

- ・発信する相手や場面、内容が限定される。
- ・会話の理解が不十分である

という実態が、複数の生徒が該当する。

手立てとしては、

- ・場面設定や環境を整え、発信する機会を増やす。
- ・適切な表現を教える。
- ・理解の確認をする。

という指導が進められる。

(3) 指導の経過

各グループに、指導の中間考察として①指導の実際（手立てに沿って具体的にどのように指導が進められたか、手立ての他に課題解決に向けて指導した内容）、②実態の変化（指導を行っていく中で観点に関わり変化した点）、③今後の指導（手立てを評価した上で指導を継続するか、変えることや加える手立てがあるか）について、評価と協議を行ってもらった。（資料3 指導経過(中間)参照）

①「相手や場を理解する」

指導経過を検証すると、

- ・適切な言動や敬語については、できる場面が増えてきている生徒が多い。
- ・相手や場面について理解は深まっている。相手を意識する様子が見られる。
- ・適切な行動については、定着には至っていない。

という評価がされた。

指導を進めたことで、それぞれの対象者に相手を理解しようとする姿が見られ、他者理解の考え方が身についてきている。しかし、適切な表現ができるまでには至っていないことや、指導を受けた内容について時間の経過と共に意識が薄れ、定着に至っていないことが課題としてあげられた。今後、更なる理解を深めるために指導を継続していくことや、自己理解や発言、行動の振り返りができるような指導が進められていくこととなった。

②「伝える力」

指導経過を検証すると、

- ・発言の内容や、発言する対象に広がりが見られる。
- ・発言を考える様子がある。

・消極的であったり、習慣が付かなかったりと変化がみられない部分もある。
という評価がされた。

伝える場面を設定したことで、会話や挨拶を発する様子が増えている生徒が多い。しかし、場面や相手が限定されること、会話内容が限定されていることや不適切な発言となってしまうことがそれぞれ課題としてあげられた。今後も継続して場面設定を行い、場面と言語を合わせて自ら発することを増やす指導や適切な表現の指導についても指導を行う。また、変化がみられなかった生徒については、ワークシートを活用し必要性について指導が進められる。

(4) 指導結果

各グループに指導結果として、①指導経過（手立てに対する生徒の変化）、②指導結果(手立てについての評価・課題)、③生活力について（指導を通して生活力に関する実態の変化）について、評価、検証を行ってもらった。（資料③ 指導結果参照）

①相手や場を理解する

生徒A、生徒Bは研究当初、相手との関わりで不適切な発言があるという実態であったが、適切な発言や関わりがみられるようになっていく。それぞれロールプレイやSSTを通し、他者理解と共に自己理解について理解を深めながら、場面に応じて適切な関わり方を指導している。他者理解については難しい部分もみられるが、SSTと実践の相互による指導が有効であったことがうかがえる。また、コミュニケーション以外の部分でも一般受けする服装を選ぶという変化が見られ、周囲への意識と自己を客観視できる様子が生まれた。

生徒Cは研究当初、敬語を話せないという実態と共に、コミュニケーションの手段として叩いてしまう実態があり、相手の気持ちを考えることや敬語の意味合いなどを教えながら、適切な関わり方について指導が進められた。相手の気持ちを考える様子は出てきているが、相手の気持ちを自分の都合のよいように考える様子があり、その都度考えを修正していくことが必要である。敬語については、使える様子が増え、また、場面に応じた態度が身に付いてきているという点では、場面に応じた適切な行動を理解し、場を考えて態度を表している様子である。

生徒Dは、時と場に応じた言葉遣い、挨拶が難しいという実態と共に、不適切な行動により周囲へのアピールをしている実態があった。適切な言動の指導と共に、対人関係のトラブルに関して相手の気持ちを考え解決法を職員と考えることを行った。言葉遣いや挨拶について、精神状態に左右されるため身に付くまでには至っていないが、理解は進んでいる。また、相手へのアピール行動が相手を喜ばせることへ行動が変容したり、相手に不快な思いをさせたことに気がついて謝罪できることが増えた。

生徒Eは、その場にいない他生徒のことで不適切な発言がある。また、自分の行動を優先したり、相手の状況を考えず行動したりするなど自己中心性がみられた。不適切な発言のときには、相手と自分の立場を置き換えて、発言の振り返りをさせた。また周囲の状況を把握して行動することを指導した。考えさせる指導を繰り返し、不適切な発言はなくなってきており、相手の気持ちを考える様子が見られ、自分の発言や行動が適切であったかを考えることができるようになった。

②伝える力

生徒Fは、自分の意志や困ったことを自ら適切に伝えることが難しく、聞かれたことに対して答えることが多い。友達と協調する場面も少なく、会話も長続きしない。日常生活の中で会話の機会を増やし、自分の思っていることや悩みなどを伝える場面を作り指導が進められた。また、消極的な関わりについては、本人の興味のある話題を提供し、話しやすい環境を整えコミュニ

ケーションをとってきた。自分から積極的に話すことは少ないが、相手からの働きかけで自分の意志を伝える場面が増え、徐々に会話の幅も広がってきている。

生徒Gは、自主的な挨拶が難しいが、自分の欲求などは自ら伝えることができるという実態がある。職員からの挨拶に対して、必ず応える指導をし、顔を見たら挨拶ができるよう習慣づけを行った。次第に能動的な挨拶ができるようになり、自分から会話をしてくることが多くなった。また、職員から保護者への伝言の依頼などについても一度の指示で的確に実行することができるようになった。

生徒Hは、自分の意見を伝えることが難しく、本心ではやりたくないことであっても深く考えずに引き受けてしまうことがあったり、周りに流されて不適切な発言をしたりすることがある。また、会話の内容が理解できていなくても確認せずに返答することがある。日常の会話から気持ちと発言にずれがないか確認し、適切な表現について指導が進められた。場当たりの発言が少なくなり、考えて発言するようになったことで、自分の思いや考えを伝えることができるようになってきている。また、不適切な発言は、適切な言葉遣いを教えることで少なくなっていく。会話の内容の理解については、会話の後に本人に内容を説明させて確認することで、適切に返答することができるようになった。日常生活の色々な場面で考えることができるようになり、行動面においても考えてから行動する様子が見られるようになった。

生徒Iは、会話の内容を理解することが難しく、自分の発言に自信がないため、積極的に人と関わりを持つことが少ない。話をしているグループの中でも聞き役になることが多い。職員が介入し、会話に参加するよう促してきた。また、会話の中での曖昧な返事などがあったときは、かみ砕いて内容を説明してきた。同学年の生徒には自分の意見を伝えることができるようになり、会話をする様子が見られる。また、会話の内容の理解が難しいときには、自分からどういう意味か、どういった内容か聞き、自分でも考えるようになった。

生徒Jは、自分の思いを伝えることが難しいときがあり、返事や挨拶の際もうなずくだけで済ませてしまうことがある。職員と相手にどのように伝えるか、考える機会を設け指導を進めてきた。経験を積み重ねることで自信につながり、徐々に積極的に伝えることができている。また、挨拶や返事も適切にできるようになってきている。自信が付いたことで、周囲への自発的な働きかけや率先して行動することも増えてきている。

相手や場を理解することが難しいという課題をもつ生徒について、他人の視点を持たせる指導や、自分の発言や行動を振り返って適切な表現を修正させる指導が進められることで、生徒が自己中心的な思考から、他者や周囲を意識したり、自分の発言を振り返ることができるようになっており、メタ認知が育成されている結果と考えられる。また、伝える力に課題を持つ生徒については、言葉を自発できるよう、場面と言葉を合わせて発する指導や場面を設定した発話の誘導の指導が進められ、場面を考えて発言したり、自分の気持ちや考えをまとめて発言することができるようになっており、論理的な思考が身についたと考えられる。それぞれ課題であった敬語や挨拶、適切な関わり、行動などについて成長が見られ、それと共にメタ認知や論理的な思考が伸び、周りを意識した行動や後のことを考えて行動する様子が見られたことから、自己統制力や自己管理能力も成長していると考えられる。

まだ、卒業後に自立して生活するのに十分な自己管理能力が育成されたとまでには至っていない。今後も、コミュニケーションの指導やその他の日常的な生活指導において、生徒の自己管理能力を意識した指導が必要である。

3 成果と課題

全体研修会には、勤務の関係上全職員が参加することは難しかったが、研修会の資料や記録をもとに個々で理解を深めた。

事例研究では、コミュニケーションの指導を通し、行動意義の理解、自己の発言や行動を振り返ることを意識して活動できるよう研究を進めた。コミュニケーションの課題解決と共に、日常生活において考えた行動や周囲を意識する様子などの変化がみられる成果が得られた。寄宿舍での指導で身に付いたことが卒業後の生活でも維持され、自立した生活に結びつくよう、計画的に生徒の指導を進めていく必要がある。今後、個別の指導計画について、より良く作成できるよう検証し、生徒の指導に当たれるようにしていきたいと考える。

寄宿舎研究対象生徒について

項目・生徒	課題	手立て
② 礼儀作法		
【男子】		
男子生徒1	割り込んで話す。	緊急性があるときとないときの違いを教え、待つよう指導する。
男子生徒2	目上に不適切な言葉遣いをする。	正しい言い方を伝えて言い直しさせる。
男子生徒3	注意されたことに感情的になり乱暴な言葉を発する。	適切な言葉を指導する。
男子生徒4	意志や困ったことを適切に伝えることが難しい。	会話をする機会を多くし、考えを伝える場面を作り指導する。
男子生徒5	分からないことがあっても聞かない。	考えを相手に伝えるよう指導する。
男子生徒6	目上に敬語を使うことが難しい。	見本を示し、適切な使い方を指導する。
男子生徒7	気持ちを相手に伝えることが難しい。	自己判断せず、相談するよう話す。
男子生徒8	目上に敬語で話すことが難しい。	必要性を説明し、言い直しさせる。
男子生徒9	とっさの会話で敬語を使うことが難しい。	言い直しさせる。
男子生徒10	親しい相手に不適切な言葉遣いをする。	必要性を説明し、言い直しさせる。
男子生徒11	自ら進んで挨拶することが難しい。	自分から挨拶することで印象が良くなることを伝え、自分から行うよう指導する。
男子生徒12	思ったことや感じたことを何でも話すことでトラブルになることがある。	発言があったときにどのような表現が適切だったか考えさせ、整理してから発言するよう指導する。
	人の話を終わるまで待ってから話すことが難しい。	待たずに話したときに、急を要する話でなければ終わるまで待つよう指導する。
	自分の考えや思いと異なると、不適切な態度をとることがある。	他者の考えや思いを聞くことの重要性を説明し、不適切な態度をしないよう指導する。
男子生徒13	挨拶の声が小さい。積極的に挨拶することが難しい。	挨拶の大切さを話ながら理解させ、自分から挨拶することができるよう場面を通して指導する。
男子生徒14	大きな声で挨拶が難しい。	適切な声の出し方の見本を見せ、言い直しさせる。
男子生徒15	自主的に挨拶が難しい。	職員から声を掛けて節目の挨拶が定着できるよう指導する。
男子生徒16	自分から挨拶が難しい。	職員が見本を示す。できたときは賞賛し意欲を高めるよう指導する。
男子生徒17	自分から挨拶が難しい。	職員が見本を示す。できたときは賞賛し意欲を高めるよう指導する。
男子生徒18	自分から挨拶が難しい。言われてから挨拶する。	重要性を説明し、積極的に挨拶できるよう指導する。
男子生徒19	気持ちを相手に伝えることが難しい。	思いを伝えられるよう職員から言葉がけし、少しずつ言葉がけを減らす。
男子生徒20	気持ちを相手に伝えることが難しい。	思いを伝えられるよう職員から言葉がけし、少しずつ言葉がけを減らす。
男子生徒21	適切な敬語を使えていないことがある。	正しい敬語を伝え、言い直すよう指導する。
男子生徒22	相手が親しい関係性の場合、敬語を使わないことがある。	相手や周りが受ける印象について説明し、敬語を使うよう指導する。
男子生徒23	敬語を使って会話することが難しい。	正しい話し方を教え、言い直しをさせて指導する。
	挨拶や会話の声が小さいことがある。	相手に聞こえていないことを教え、適切な声の大きさを言い直しをさせて指導する。
【女子】		
女子生徒1	時と場に応じた言葉遣い、挨拶が難しい。	場に適さない言葉遣いときは、適切な言葉遣いや挨拶を伝え、できているときは賞賛する。

項目・生徒	課題	手立て
女子生徒2	周囲の状況を判断することが難しい。自分の意見を伝えようとする。	状況を見ずに自分の話をしているときは、一度止めて周りの反応を見るように言葉がけする。
	都合が悪くなると事実とは異なる返答をする。	その都度、礼儀やマナー面から社会で通用しないことや、円滑な対人関係を気づくために事実を適切に伝える必要について話す。
女子生徒3	会話の声が途中で小さくなる。	大きな声で話すようその場で指導する。
女子生徒4	気持ちに左右され、返事や挨拶の際に小さな声になる。	言い直しをさせ、自ら大きな声で挨拶や返事ができるよう指導する。
女子生徒5	気分が高揚すると不適切な言葉遣いになる。	周囲への印象を考えさせ適切な言葉遣いを指導する。できたときは賞賛する。
女子生徒6	友達同士の中で不適切な言葉遣いをする。	周囲にどのような印象を与えるかを伝え、指導する。
女子生徒7	目上の人に不適切な言葉遣いをする。	敬語を使うことが礼儀であると伝え、その都度指摘し、言い直させる。
女子生徒8	目上に適切な敬語を使うことが難しい。	その都度指摘し、言い直しをさせる。
	指導を受けた際、事実とは異なる発言をする。	信用されなくなり、不信感を与えることを指導する。素直に話さなければ反省していないと思われることを伝え指導する。
女子生徒9	指摘されたことに事実ではない返答をする。	その都度、礼儀やマナー面から社会で通用しないことや、円滑な対人関係を保つために事実を適切に伝える必要について説明し、指導する。
女子生徒10	不適切な言葉遣いや、集会などでの私語、友人と盛り上がり不適切な行動をとってしまう。	行事などの事前に気をつけることを伝え、適さない行動の際は言葉がけし意識を高めるよう指導する。
女子生徒11	挨拶、返事の声が小さいときがある。	相手に伝わる大きな声で挨拶するよう指導する。
女子生徒12	話しかけられても首を振って答えることが多く、言葉での返答が少ない。	相手に対して失礼になること、言葉で伝えなければ伝わらないことを話し指導する。
女子生徒13	積極的に挨拶することが難しい。	社会に出たら挨拶は礼儀の基本となることを伝え、指導する。
女子生徒14	人が話をしているときに割り込んで話し始めてしまう。	人が話しているときは終わるまで待つよう指導する。
女子生徒15	敬語を使用することが難しいことがある。	周囲にどのような印象を与えるかを考えさせ、適切な敬語を指導する。
女子生徒16	自分から挨拶、返事がなく、職員から指摘を受けても笑うなどの不適切な対応をすることがある。	自分から挨拶、返事をすることの重要性や周囲からどのような印象を受けるか説明し、指導する。
女子生徒17	返事や挨拶をする際にうなずきだけで済ませてしまうことがある。	その都度言葉がけを行い、できたときは称賛し指導する。

③ 交際

【男子】		
男子生徒24	話を素直に聞くが難しい。	相手の気持ちを考えさせる。
男子生徒25	不適切な言動がある。	適切な言動を指導する。
男子生徒26	誘われて不適切に関わることもある。	適切な関わり方を考えさせ、距離感も含めて指導する。
男子生徒27	意志を伝えることが難しい。	適切な話し方を分かりやすく指導する。
男子生徒28	相手の気持ちや状況を考えた発言が難しい。過度な関わりがある。	適切な発言を考えさせる。
男子生徒29	相手との距離が近い。	適切な距離をとらせて指導する。
男子生徒30	異性との距離が近い。	適切であったか考えさせる。適切な関わり方を指導。

項目・生徒	課題	手立て
男子生徒31	特定の生徒に対して過度なコミュニケーションをとる。	苦手な相手には適度な距離を置くことを伝え、トラブル前に自分で気づけるよう指導する。
男子生徒32	親しい相手に距離が近い。過度に関わることがある。	適切な距離を具体的に示す。
男子生徒33	自分から関わるのが難しい。	関わる際に職員が間に入り、楽しさを知らせる。
男子生徒34	友人関係でストレスをためる。	本人の行動を把握し、ストレスを解消する方法を提示し一緒に考える。
	不快感を与える発言がある。	指摘し、相手の気持ちを考えた言動ができるように指導する。
男子生徒35	相手との距離が近い。	他者からの印象を教え、適切な距離感を指導する。
	不適切な言動がある。	例を挙げ、適切な言動を選択させる。
男子生徒36	友達との関わりで悩む。	職員に相談させ、対処法を一緒に考える。
男子生徒37	不適切な距離で関わる。	指摘し、適切な距離の具体例を挙げる。
男子生徒38	異性との距離が近いことがある。	話し合いの場を設け、適切な距離の具体例を挙げる。
男子生徒39	乱暴な言葉遣いのときがある。	思いやる気持ち、相手の立場になって考えるよう指導する。
男子生徒40	気持ちを考えず発言する。	適切なのか考えさせる。例示する。
男子生徒41	気持ちを考えることが難しい。	相手の気持ちを説明し、関わり方を伝える。
男子生徒42	深く考えず場にそぐわない発言をする。	相手の気持ちを考えさせ、適切な表現方法を伝える。
	自分の意見を伝えられない。	意見を伝える場を設定する。考えを聞き、伝え方を教える。
男子生徒43	他生徒に不適切な言葉を発する。	適切な言葉を使っていないとき、適切な言葉を伝え、言い直しさせる。
男子生徒44	特定の人と過度な関わりがある。	周囲の人と適切な距離を保って関わるよう、その都度指導する。
男子生徒45	他生徒と積極的に関わるのが難しい。	職員が言葉がけ、関わりを持たせる。
男子生徒46	他生徒と積極的に関わるのが難しい。	職員が言葉がけ、関わりを持たせる。
	適切な声の大きさに話すが難しい。	職員から言葉がけし、場に合った声の大きさを指導する。
男子生徒47	伝える必要のあることを連絡しないことがある。	連絡や報告をする機会を作り、相談しやすい環境を設定し、経験を増やす。
男子生徒48	自主的に会話に入っていくことが難しい。	職員が間に入って、他生徒と関わる場面を設定して経験を増やしていく。
【女子】		
女子生徒18	相手の気持ちを考えた言動が難しい。	不適切な言動のときは、その都度相手の気持ちを伝え適切な関わり方を指導する。
女子生徒19	距離が近いことがあり、関わりが不適切なことがある。	月に2回、本人の関わり方を振り返りながら指導する。
女子生徒20	自己判断により異性と交際をしていたことがある。	男女交際のマナーを教え、二人きりの行動、人が居ないところでは話をしないよう指導する。
女子生徒21	同性との距離が近い。	距離を保たなければならないこと、近いと嫌がる人もいることを説明し、適切な距離を保つよう指導する。
女子生徒22	同性との距離が近い。	距離を保つ必要性を説明し、適切な距離を保つよう指導する。
女子生徒23	同性との距離が近い。	距離を保たなければならないこと、近いと嫌がる人もいることを説明し、適切な距離を保つよう指導する。
女子生徒24	考えすぎたり、自分なりに捉えて不安が大きくなる。	職員へ相談するよう伝え、その都度どのように解消するか一緒に検討し、自ら解決策を考えられるよう指導する。
女子生徒25	まわりに影響を受け気持ちをコントロールすることが難しい。	自制の必要性を説明。気持ちのコントロールの方法を一緒に考え、徐々に気持ちの安定ができるよう指導する。

項目・生徒	課題	手立て
女子生徒26	会話内容の理解が難しい。発言に自信がないため積極的に関わることが難しい。	分からないときは分からないと伝え、自信がなくても間違っても良いから発言をすることを指導する。
女子生徒27	人見知りがあり、積極的に特に下級生に関わることが難しい。	社会に出たときのコミュニケーションの必要性を伝え、日々の生活で1年生に教えるよう言葉がけし、関わる機会を増やして指導する。
女子生徒28	友達との関わりで不適切な言葉遣いがある。	その場で相手は不快に思うことを伝え、適した言葉遣いを指導する。
女子生徒29	友達の輪に入ることが難しく、コミュニケーションをとることが難しい。	趣味を通じ交流できるよう職員が間に入る。輪に入るための行動や言葉を説明し指導する。
女子生徒30	他者の活躍の場面でも率先し、状況に適さない行動がある。	意欲を認め賞賛すると共に、他者がどのように感じるかを投げかけ、気が付くきっかけを与えるよう指導する。
女子生徒31	相手の顔を見て挨拶・返事・最後まで話を聞くことが難しい。	相手に与える印象を説明し、しっかりと顔を見て行うよう指導する。
女子生徒32	相手が気にしていることを発言することがある。	相手の立場になって考え、思いやる気持ちを持つよう指導する。
女子生徒33	他生徒との距離が近く、スキンシップが多い。	相手によっては嫌な思いをする、社会に出たときに適切な距離感で接する指導する。
女子生徒34	その場にはいない他生徒のことで不適切な発言をすることがある。	不適切な発言は絶対に許されないこと、自らに置き換えて考えるよう指導する。

④ 集団生活

【男子】		
男子生徒48	気持ちの切り替えが難しい。同じことを訴え続ける。	話を聞き、正しい態度や過ごし方を伝える。
男子生徒49	周りを意識して協力が難しい。	他生徒に聞くように言葉がけする。
男子生徒50	自分の考えや思っていることを相手に伝えることが難しい。	会話を多くしながら思いを伝える機会を増やす。困っていることや相談したいことはすぐに職員に伝えるよう指導する。
男子生徒51	全体に指示したことを行動に移せないことがある。	全体への指示は自分にも言われていることであると教え、指示内容に従い行動するよう指導する。
男子生徒52	自主的な集団への参加が難しい。	当番活動や行事を通して、積極的に活動できるよう言葉がけする。
男子生徒53	玄関や食堂などで場に合わない行動をする。	その都度適切な行動を指導する。
男子生徒54	特定の友人と過ごし、集団に入ろうとしない。	集団での活動を通して関わる機会を持たせ、交友関係を広げられるよう指導する。
	分からないことを確認しない。	分からないことを周りの人に確認するよう話をする。
男子生徒55	指示を待って活動することがある。	役割が分からないときは、人に聞くよう言葉がけし、確認する習慣がつくよう指導する。
【女子】		
女子生徒35	自ら周囲に聞き、行動することが難しく、指示を待つことが多い。	分からないことは待っているだけでなく、周囲に聞くことの必要性を説明し、指導する。
女子生徒36	掃除などの活動のときに指示を待っていることがある。	職員と一緒に周りの人に役割を聞く練習をし、徐々に一人で聞けるよう指導する。

①「相手や場を理解する」

	生徒 A	生徒 B	生徒 C
指導の手立て (個別の指導計画より)	・相手を傷つける発言があったときには、どのような表現が適切だったか考えさせ、整理してから発言するよう指導する。	・相手に不快感をあたえるような言動をしているときは指摘をして、相手の気持ちを考えた言動ができるように指導する。	・日常生活の中で敬語を使うことが難しいときには、敬語を使う必要性や敬語を使う意味を説明し、言い直しをさせ指導する。
観点に関する実態	・相手の気持ちを考えずに、発言することがある。 ・常に正論を求めるため、冗談が通じない。 ・相手に話しかけられたとき、何かをしていると、それが終わるまで耳を傾けようとししない。	・相手や場を理解できていないということではないが、冗談のつもりで失礼にあたる会話をして、コミュニケーションを取ろうとする傾向にある。 ・人との関わり方、距離感が上手につかめず、人間関係を構築させるのが苦手。そのため交友関係が狭い。	・人との関わり方に課題があり、コミュニケーションを取る方法の一つとして他生徒を叩くことがある。 ・他生徒に叩くなどの行為があり、自分がされたらどう思うのかと問うと「別に」「良いんじゃない」などと言ってごまかしてしまう。 ・感情の起伏をコントロールすることが難しい。 ・特定の職員に対し敬語を使えないことがある。 ・普段の関わりと掃除の挨拶や指導時の切り替えが難しい。
観点に関しての指導の手立て	・ワークシートを使って、相手の気持ちや伝え方を考える指導をする。 ・表現方法、伝え方を場面場面で指導する。	・望ましいコミュニケーションの取り方を教えるため、資料を活用して本人の実態を調べていきながら、人に合わせた適切な会話、態度を教え、相手の立場などをふまえたうえで不快感を与える会話をしないことを理解させる。	・本人に考えさせるのではなく、「こうしたら相手から良い印象を受けやすい」というように、指導者側から見本を教え、指導していく。 ・指導者を変え、本人に分かりやすいようにメリハリを付けていく。 ・場面に合わせた態度をその都度、指導していく。

①相手や場を理解する

	生徒D	生徒E
指導の手立て (個別の指導計画より)	・その場に適さない言葉遣いときは、その都度適切な言葉遣い、挨拶を伝え、できているときは賞賛し、継続するよう指導する。	・他生徒に対し不適切な発言は絶対に許されないこと、自分に置き換えて考えるよう、指導する。
観点に関する実態	・相手の気持ちを考えた言動をすることが難しい。 ・時と場は理解しているが、その場に合った言葉遣いや挨拶をすることが難しく、不適切な行動で周りの人へアピールすることがある。	・相手が嫌がっていても自分の興味のある話や、自分の話を続けることがある。 ・先の状況を読めずに、自分の行動を優先し、人を待たせることがある。 ・相手の状況を考えずに、同じことを繰り返し話し、不快感を与えてしまうことがある。 ・相手を不快にさせる行動が多い。
観点に関しての指導の手立て	・卒業後を見通して、適切な言動をするのは礼儀であることを伝え、適切な言動を意識して行うよう指導する。 ・不適切な言動があったときにはその場で注意し、適切な言動を指導していく。適切な言葉遣いや言動ができたときには、大いに賞賛し、継続するよう指導する。	・自分の話を続けている際には、周りの人はどのような思いでいるのかをその都度話し、まずは自分の興味のある話ばかりではなく、相手の話を聞くよう指導する。 ・自分の行動を優先するのではなく、周りの状況を把握し優先するよう指導する。 ・話したいときは、相手の都合を確認するよう指導する。 ・相手が嫌だと言った言動は繰り返さないよう指導する。 ・相手が嫌がっているのに気付いていないときは職員が介入し、自分がされて嫌なことは相手にしないこと、相手のことを自分に置き換えさせ、どのようなことが相手に不快感を与えるかを指導する。

②「伝える力」

	生徒 F	生徒 G	生徒 H
指導の手立て (個別の指導計画より)	日常生活の中で、会話をする機会を多くしながら、自分の考えや思いを伝える場面を作り指導する。	職員の方から積極的に声をかけて、起床時や登校、下校のときなどの節目の挨拶が定着するように、指導する。	意見を伝える場を設定して意見を伝える機会を増やす。周りの意見に流されているときは、本人の考えを聞き、伝え方を教えると共に、考えを伝える必要性について話し指導する。
観点に関する実態	- 困ったことや不満に思っていることは、すべて母親に報告することで自分なりに解決を図っている。 - 職員に対しては、聞かれたことに対し報告することはできるが、自分から進んで話をするのが少ない。 - 日常生活の中では一人での行動が多く、友達と協調する場面は少ないが、ゲームの対戦など誘われると一緒に仲良く遊ぶことはできる。友達に聞かれたことに対してはゲームの内容など答えることはできるが、会話は長続きしない。	- トラブルがあったときや買物に行きたいとき、電話をかけたいときなどは、自分から職員に伝えることができる。 - 朝の挨拶や下校してきたときなどは、自主的に挨拶することがなく、職員から先に挨拶をしてそれに応えるという実態である。	- 断ることが苦手であり、深く考えずに引き受けてしまう。そのため、引き受けたことができなったり、本心ではやりたくないことであることだったりするため、悩む様子や直前になって断ることがある。 - 会話の内容が理解できていなくても、確認せずに返答することがある。 - 否定的なことを受け入れる事が苦手である。
観点に関しての指導の手立て	- 日常生活の中で会話をする機会を多くし、自分の思っていることや悩みなどを伝える場面を作っていく。 - 本人の興味のある話題を提供することで、話をしやすい環境を整えていく。 - 学校での出来事や帰省中の様子など日頃から報告するように指導していくことでコミュニケーション能力を高めていく。	- 初めは職員の方から日課の節目などに意識的に挨拶をして、本人がそれに対して必ず応えるように指導する。 - 職員からの働きかけを多くして、話しやすい環境を作っていく。 - 徐々に、受動的な挨拶の仕方から能動的に挨拶できるように（顔を見たらおのずと挨拶の言葉が出るように）習慣づける。	- 室長として、分担を考えるなど考える場面を設定する。 - 日常の会話から、気持ちと発言にずれがないか確認し、適切な表現について指導する。 - 会話の内容についてどの程度理解できているか、会話の後、本人に内容を説明させて確認する。 - 本人の認識をワークシートを用いて探る。

②「伝える力」

	生徒 I	生徒 J
指導の手立て (個別の指導計画より)	・会話の内容が分からないときには分からないと伝えること、自分の発言に自信がなくても、間違っているからまずは自分の発言をすることを指導する。	・挨拶や返事の場合でその都度言葉がけを行い、できているときは称賛することで自信を高めていけるよう指導する。
観点に関する実態	・会話の中で、話の内容が理解できていないことを相手に伝えることが難しい。 ・同年齢のグループの中で、積極的に発言をすることが難しい。 ・自分の発言に自信がないため、積極的に会話に参加することが難しい。	・自分の思いが伝えられず、職員の介入が必要なときがある。 ・友達との交流が持てずに、一人で過ごすことが多い。 ・泣くことが多いが、なぜ泣いているのか伝えることが難しい。
観点に関しての指導の手立て	・分からないことは恥ずかしいことではないこと、分からないままにしている方が後になって自分が困ることを伝え、分からないことをその都度聞くように指導する。 ・会話の中で本人が理解できていないような様子があるときには、職員の方から内容を理解できているか確認し、理解していないときには内容をかみ砕いて伝え、自分から聞くように指導する。	・職員と相手にどのように伝えたら良いか考える機会を設け指導する。 ・職員と一緒に相手に自分の思いを伝える練習をしていく。 ・泣いている際は言葉で伝えることが難しいときは、ノートに書かせるなど自分の思いを伝える手段を指導していく。

寄宿舎研究 各グループ資料

グループ名 A グループ (相手や場を理解する)

対象生徒の実態 思ったことや感じたことを何でも話すことでトラブルになることがある。

指導の手立て (個別の指導計画より)

- ・相手を傷つける発言があったときには、どのような表現が適切だったか考えさせ、整理してから発言するよう指導する。

観点に関する実態

- ・相手の気持ちを考えずに、発言することがある。
- ・常に正論を求めるため、冗談が通じない。
- ・相手に話しかけられたとき、何かをしていると、それが終わるまで耳を傾けようとしない。

観点に関しての指導の手立て

- ・ワークシートを使って、相手の気持ちや伝え方を考える指導をする。
- ・表現方法、伝え方を場面場面で指導する。

指導経過(中間)

①指導の実際

- ◎手立てに沿って具体的にどのように指導を進めたか
- ◎手立ての他に課題解決に向け、指導したこと

- ・自分の思いや考えをひたすら話し続けるのはコミュニケーションでなく、相手の話を聞くことに重きを置き、聞く姿勢を指導した。

FELOR (傾聴するときのキーワード)

Face : 相手に顔を向ける

Eye contact : 相手と目を合わせる

Lean : 体を前に傾ける

Open : 心も体も開いた状態にする

Relax : リラックスして聞く

上記の説明をし、何かをしながら話を聞くことは、不愉快な気持ちにさせること、自分の話が伝わらないと相手に思われ、何も話されなくなることを指導した。特に、何かをしながら話を聞いていることが多いので、気をつけるよう伝えた。

- ・自分の興味のあること以外では人と距離を置く傾向にあるため、相手の領域に寄り添うようにすることがコミュニケーションの第一歩であることを伝えている。あわせて、相手に与える印象として挨拶の大切さを伝え、自分から進んで行うことで人間関係構築につながることを指導している。挨拶のルールとマナーについても指導している。
- ・他者理解をする上で、自分自身を知るため、セルフシートを実施した。その中で自分が感じる短所と捉えられる点については、リフレーミングを行い、視点を変えると長所に置き換えることができることを指導している。

②実態の変化

- ◎指導を行っていく中で観点（相手や場を理解する）に関わり、変化した点
- ◎改善された点、残された課題

- ・対峙する相手がどういう人か知ろうとする様子がある。
- ・会話を通して、あまりにも現実的ではない話になると、「冗談ですよ？」と自分で気づき、受け流すことができるようになってきた。
- ・相手を理解しようとする姿勢が見られる。
- ・自己理解を深め、自分のことを他者に理解してもらうにはどのような接し方が適切か対応の工夫。
- ・他者を傷つけない、困らせない態度や発言をすること。

③今後の指導

- ◎手立てを評価した上で、指導を継続するか、変えることや加える手立てがあるか

- ・他者のリフレーミングを考えながら、他者の長所を評価し、他者理解を深める。
- ・ワークシートを使って相手の気持ちや伝え方を考える指導をする。
- ・表現方法、伝え方を場面場面で指導する。

指導結果

①手立てに対する生徒の変化

- ・相手を傷つけるような発言や相手が困るような態度については、場面を設定し、ロールプレイをしながら取り組むことで、トラブルは減ってきている。
- ・他生徒との関わりで相手が嫌な気持ちになり、謝罪することが多かったが、自分

で適切な線引きをして関わるができるようになってきている。

- ・相手が不快な印象を受けない適切な距離感で接することができるようになった。

② 手立てについての評価・課題

- ・リフレーミングの一覧を見ながら、自分の性格が視点を変えると違う見方もできるということは、本生徒にも分かりやすく効果的であった。
- ・ワークシートによる指導は本生徒の実態にマッチしたものは取り組むことができ、自己理解を深めることができた。他者理解については、ワークシートの取り組みでどのくらい理解に至ったかは判断が難しかった。
- ・場面場面での指導では、座学で取り組んだことが実践できるようになってきていて、修正を加えながら指導ができ、効果的だったと考える。

③ 指導を通して生活力に関する実態の評価

- ・他者理解までには至っていないが、周りを見て状況にあった発言ができるようになってきている。言い過ぎて他者を傷つけることも減り、徐々に思いやりを持って接することができてきている。

寄宿舎研究 各グループ資料

グループ名 B グループ (相手や場を理解する)

対象生徒の実態 不快感を与える発言

指導の手立て (個別の指導計画より)

- ・相手に不快感をあたえるような言動をしているときは指摘をして、相手の気持ちを考えた言動ができるように指導する。

観点に関する実態

- ・相手や場を理解できているが、冗談のつもりで失礼にあたる会話をして、コミュニケーションを取ろうとする傾向にある。
- ・人との関わり方、距離感が上手につかめず、人間関係を構築させるのが苦手である。そのため交友関係が狭い。

観点に関しての指導の手立て

- ・望ましいコミュニケーションの取り方を教えるため、資料を活用して本人の実態を調べていきながら、人に合わせた適切な会話、態度を教え、相手の立場などをふまえたうえで不快感を与える会話をしないことを理解させる。

指導経過(中間)

①指導の実際

- ◎手立てに沿って具体的にどのように指導を進めたか
- ◎手立ての他に課題解決に向け、指導したこと

- ・S S Tの資料からコミュニケーションに関わる内容を抜粋し、記入を行わせた。
- ・まず本人と積極的に関わり関係を深め、コミュニケーションを取っていき望ましい関わり方を教えてきた。

②実態の変化

- ◎指導を行っていく中で観点(相手や場を理解する)に関わり、変化した点
- ◎改善された点、残された課題

- ・以前よりも相手を不愉快にさせる内容の会話は減ってきている。
- ・自分のことに興味がなく、理解や把握をしていないような内容の解答が多く見ら

れ、コミュニケーションを取る際に知っておくべき情報が多かった。

③ 今後の指導

◎ 手立てを評価した上で、指導を継続するか、変えることや加える手立てがあるか

- ・ 家庭環境や育った環境により、自己肯定感が低い様子が見られる。自分自身と向き合っていない部分や自分のことを知らない部分があるため、引き続き指導を継続する。自分自身のことの理解が不十分であるため、わからない部分は調べさせていき自分を知る指導をする。

指導結果

① 手立てに対する生徒の変化

- ・ 人との関わり方に慣れた様子で、以前は会話が成立しなかったが、適切な会話を続けられるようになった。
- ・ 距離感がある人に対しては、敬語を使用して礼儀正しく接することができている。このことから、相手の立場を理解することはできていることがうかがえる。

② 手立てについての評価・課題

- ・ ほぼ達成することができた。不適切な発言があったときは、言い直しをさせることにより、正しく言えるようになった。

③ 指導を通して生活力に関する実態の変化

- ・ 相手や場に応じて敬語や適切な関わり方ができるようになった。
- ・ 一般受けする服装を選んで着用するようになり、相手から見られる印象が変わってきた。本人も好印象の受け方を理解できてきている様子であった。

寄宿舎研究 各グループ資料

グループ名 C グループ (相手や場を理解する)

対象生徒の実態 目上の人への敬語が難しい。

指導の手立て (個別の指導計画より)

- ・日常生活の中で敬語を使うことが難しいときには、敬語を使う必要性や敬語を使う意味を説明し、言い直しをさせ指導する。

観点に関する実態

- ・人との関わり方に課題があり、コミュニケーションを取る方法の一つとして他生徒を叩くことがある。
- ・他生徒に叩くなどの行為があり、自分がされたらどう思うのかと問うと「別に」「良いんじゃない」などと言ってごまかしてしまう。
- ・感情の起伏をコントロールすることが難しい。
- ・特定の職員に対し敬語を使えないことがある。
- ・普段の関わりと指導時などの切り替えが難しい。

観点に関しての指導の手立て

- ・本人に考えさせるのではなく、「こうしたら相手から良い印象を受けやすい」というように、指導者側から見本を教え、指導していく。
- ・指導者を変え、本人に分かりやすいようにメリハリを付けていく。
- ・場面に合わせた態度をその都度、指導していく。

指導経過(中間)

①指導の実際

- ◎手立てに沿って具体的にどのように指導を進めたか
- ◎手立ての他に課題解決に向け、指導したこと

- ・身体接触があり、人との距離感や関わり方について、相手や周りの人からどう思われるかについて指導した。
- ・他生徒に対し叩く行為などの不適切な関わりがあり適切な関わり方や相手の気持ちを考える指導をした。

- ・掃除の挨拶のときに姿勢を正すことを話し、メリハリを付けられるように指導した。

②実態の変化

- ◎指導を行っていく中で観点（相手や場を理解する）に関わり、変化した点
- ◎改善された点、残された課題

- ・指導直後は意識しているが時間の経過と共に意識が薄れ不適切な関わりをしてしまっている。
- ・本人も継続できないことに少しずつ悩む様子が見られている。
- ・指導を受けているときには敬語を使って話すように気を付けられるようになってきた。
- ・特定の職員に対しては敬語を使うことが難しかった。

③今後の指導

- ◎手立てを評価した上で、指導を継続するか、変えることや加える手立てがあるか

- ・目上の人に敬語を使わないで話しをしていると相手の人がどう感じるのかを伝え、目上の人に対し敬語を使う意味や人との適切な関わり方について指導する。

指導結果

①手立てに対する生徒の変化

- ・他生徒を叩く関わり方が見られたときには、その都度指導したが相手の気持ちを自分に都合の良い形で理解して、関わっている様子だったため、相手は嫌だと指導したことにより少しずつ叩くような関わりは減っている。
- ・目上の人に対して敬語を使うことが難しかったが、指導の場面ではしっかりと意識して敬語を使い、日常会話の中でも敬語を使う場面が少しずつ増えてきた。

②手立てについての評価・課題

- ・周りの生徒からどう思われるかについて指導したが、自分なりの解釈を変えることが難しく、相手の気持ちを理解して行動することは難しかった。
- ・場面に合わせて敬語を使わなければならないことを指導したことにより、場面に

あわせた態度を取ることが徐々にできるようになってきた。

③指導を通して生活力に関する実態の変化

- ・相手の気持ちの理解については、本人に分かりやすいようにどのような関わりが相手に嫌な思いをさせ、どのような関わりが相手に喜ばれるか継続した指導が必要である。
- ・場面にあった態度については生活の場面、挨拶の場面、指導の場面などで切り替えることができるようになった。また目上の人に敬語を使う様子が増えてきた。

寄宿舎研究 各グループ資料

グループ名 D グループ (相手や場を理解する)

対象生徒の実態 時と場に応じた言葉遣い、挨拶が難しい。

指導の手立て (個別の指導計画より)

- ・その場に適さない言葉遣いのときは、その都度適切な言葉遣い、挨拶を伝え、できているときは賞賛し、継続するよう指導する。

観点に関する実態

- ・相手の気持ちを考えた言動をすることが難しい。
- ・時と場は理解しているが、その場に合った言葉遣いや挨拶をすることが難しく、不適切な行動で周りの人へアピールすることがある。

観点に関しての指導の手立て

- ・卒業後を見通して、適切な言動をするのは礼儀であることを伝え、適切な言動を意識して行うよう指導する。
- ・不適切な言動があったときにはその場で注意し、適切な言動を指導していく。適切な言葉遣いや言動ができたときには、大いに賞賛し、継続するよう指導する。

指導経過(中間)

①指導の実際

- ◎手立てに沿って具体的にどのように指導を進めたか
- ◎手立ての他に課題解決に向け、指導したこと

- ・職員を呼ぶときに不適切な言葉遣いのときにその都度指導を行ってきた。
- ・友達とトラブルが起きたときに個別に時間を設けて相手の気持ちを考え、解決方法を職員と一緒に考えた。

②実態の変化

- ◎指導を行っていく中で観点(相手や場を理解する)に関わり、変化した点
- ◎改善された点、残された課題

- ・指導を受けたときには気を付けようとする様子は見られたが、継続には至らず、毎回指導が必要であった。

③ 今後の指導

◎手立てを評価した上で、指導を継続するか、変えることや加える手立てがあるか

- ・上記の指導を継続しつつ、卒業後を見通して様々な場面を想定して言葉遣いや相手と関わる方法の練習を行っていく。

指導結果

① 手立てに対する生徒の変化

- ・不適切な言葉遣いのはきはその都度指導を行ってきた。
- ・時間を設け、適切な言葉遣いや挨拶は社会に出た際に、周りの人に好印象を与え、人間関係が良くなることを説明してきた。

② 手立てについての評価・課題

- ・時と場に応じた言葉遣い、挨拶を意識することができるようになってきているが、その日の気持ちに左右され、実践までには至らなかった。

③ 指導を通して生活力に関する実態の変化

- ・今まではマイナスな行動で相手の気を引こうとすることが多かったが、相手を喜ばせるような行動が増えた。(相手が困っているときに声をかけたり、手伝ってあげる。誕生日などには心から祝ってあげる。)
- ・相手に不快な思いをさせてしまったときに、気が付き、すぐに謝罪することが増えた。

寄宿舎研究 各グループ資料

グループ名 E グループ (相手や場を理解する)

対象生徒の実態 その場にいない他生徒のことで不適切な発言をする。

指導の手立て (個別の指導計画より)

- ・他生徒に対し不適切な発言は絶対に許されないこと、自分に置き換えて考えるよう指導する。

観点に関する実態

- ・相手が嫌がっていても自分の興味のある話や、自分の話を続けることがある。
- ・先の状況を読めずに、自分の行動を優先し、人を待たせることがある。
- ・相手の状況を考えずに、同じことを繰り返し話し、不快感を与えてしまうことがある。
- ・相手を不快にさせる行動が多い。

観点に関しての指導の手立て

- ・自分の話を続けている際には、周りの人はどのような思いでいるのかをその都度話し、まずは自分の興味のある話ばかりではなく、相手の話を聞くよう指導する。
- ・自分の行動を優先するのではなく、周りの状況を把握し行動するよう指導する。
- ・話したいときは、相手の都合を確認するよう指導する。
- ・相手が嫌だと言った話は繰り返さないよう指導する。
- ・相手が嫌がっているのに気付けていないときは職員が介入し、自分がされて嫌なことは相手にしないこと、相手のことを自分に置き換えさせ、どのようなことが相手に不快感を与えるかを指導する。

指導経過(中間)

①指導の実際

- ◎手立てに沿って具体的にどのように指導を進めたか
- ◎手立ての他に課題解決に向け、指導したこと

- ・自分の話ばかりしている際は一度話しを止め、今その話題が合っているか、みんな聞きたい話なのかを考えさせてきた。

- ・相手が嫌だと言ったことを自分に置き換えさせて、どのように思ったかを話し考えさせ、謝罪させてきた。

②実態の変化

- ◎指導を行っていく中で観点（相手や場を理解する）に関わり、変化した点
- ◎改善された点、残された課題

- ・人の悪口を言わなくなってきた。
- ・人の話を聞くことができるようになってきた。
- ・自分の行動を優先させ、相手を待たせることがあった。

③今後の指導

- ◎手立てを評価した上で、指導を継続するか、変えることや加える手立てがあるか

- ・指導を継続していく。
- ・自分の話を続けている際や、自分の行動を優先させている際は、周囲の状況を見て、その場に合った話題や行動であるかを考えさせていく。

指導結果

①手立てに対する生徒の変化

- ・自分に置き換えさせることで、相手の気持ちを考えることができるようになってきている。
- ・周囲の状況を見ようと意識することはできるようになったが、いまだ自分の行動を優先させてしまい、周囲を待たせることがある。

②手立てについての評価・課題

- ・自分の興味のある話ばかりではなく、相手の話を聞くよう指導することで、周囲の状況を見て周りに話を振ることができるようになってきている。
- ・自分の行動を優先するのではなく、周囲の状況を把握し行動するよう指導してきたが、自分の日課が終わるまで待たせることがあった。
- ・相手が嫌だと言ったことを、自分の身に置き換えて考えるよう指導することで、繰り返して話をすることがなくなってきた。

- ・ 相手が嫌がっているのに気付けていないときは職員が介入し、自分がされて嫌なことは相手にしないことや、相手のことを自分に置き換えて考えてみるよう指導することで、考えることができるようになってきている。

③指導を通して生活力に関する実態の変化

- ・ 自分に置き換えることで、自分の発言や行動が適切であったかを考えることができるようになった。そのことで、周囲とのトラブルはなくなってきている。
- ・ 自分の話ばかりではなく、他者の話を聞く姿勢が身に付いた。

寄宿舎研究 各グループ資料

グループ名 A グループ (伝える力)

対象生徒の実態 意志や困ったことを適切に伝えることが難しい。

指導の手立て (個別の指導計画より)

- ・日常生活の中で、会話をする機会を多くしながら、自分の考えや思いを伝える場面を作り指導する。

観点に関する実態

- ・困ったことや不満に思っていることは、すべて母親に報告することで自分なりに解決を図っている。
- ・職員に対しては、聞かれたことに対し報告することはできるが、自分から進んで話をするのが少ない。
- ・日常生活の中では一人での行動が多く、友達と協調する場面は少ないが、ゲームの対戦など誘われると一緒に仲良く遊ぶことはできる。友達に聞かれたことに対してはゲームの内容など答えることはできるが、会話は長続きしない。

観点に関しての指導の手立て

- ・日常生活の中で会話をする機会を多くし、自分の思っていることや悩みなどを伝える場面を作っていく。
- ・本人の興味のある話題を提供することで、話をしやすい環境を整えていく。
- ・学校での出来事や帰省中の様子など日頃から報告するように指導していくことでコミュニケーション能力を高めていく。

指導経過(中間)

①指導の実際

- ◎手立てに沿って具体的にどのように指導を進めたか
- ◎手立ての他に課題解決に向け、指導したこと

- ・本人との会話の糸口として、下校後は学校であった出来事、帰省後は家庭での出来事や過ごし方などを聞きながらコミュニケーションの場面を設定していった。
- ・音楽に興味を持っており、特に自分の好きな歌手の話になると積極的に話す傾向にあるため、余暇時間に音楽の話題でコミュニケーションをとってきた。

- ・学校や家庭での出来事について何かあれば自分から報告するよう指導を行ってきた。

②実態の変化

- ◎指導を行っていく中で観点（相手や場を理解する）に関わり、変化した点
- ◎改善された点、残された課題

- ・学校や家庭での出来事など聞かれたことに対しては受け答えをすることはできていたが、会話としては短く簡単な返答が多かった。
- ・自分の興味の内容に対しては、話が止まらず音楽プレイヤーの画像を見せながら具体的に説明してくれるなど進んで話をする様子が見られた。
- ・学校や家庭での出来事を自分から報告することはなかなか定着することはできていないが、対人関係で自分が困った出来事に対してはすぐに報告する習慣がついてきており、室担以外の職員に対しても訴えることが多くなっている。

③今後の指導

- ◎手立てを評価した上で、指導を継続するか、変えることや加える手立てがあるか

- ・日常生活における会話については、こちらからも話題を提供したりする機会を多くしていきながら、本人の考えや思いを引き出すよう努めていくことで相手に伝える力をつけていくよう指導する。
- ・今後も本人の興味のある内容の話をしていくことでコミュニケーションの機会を多くしていくよう指導する。
- ・自分から相手に思いを伝える場面を設定し、今後も継続指導を行っていく。

指導結果

①手立てに対する生徒の変化

- ・指導者との関わりだけではなく同室の生徒から話しかけられる場面や余暇時間に対戦ゲームをしながら会話をするなど日常生活の中で人とのコミュニケーションをとる機会が多くなってきている。自分から積極的に話すことは少ないが相手からの働きかけで自分の意思を伝える場面が増えている。
- ・本人の好きな音楽の話だけではなく、中学校時代のことや家族の話などこちらから様々な話題提供をしていくことで受け答えの中で会話の幅も徐々に広がってきた。

- ・帰舎後、家庭での出来事などを自分から伝えるように指導してきたが、なかなか定着することができず、指導者側の働きかけで答えることが多かった。
- ・寄宿舎生活や学校生活に関わる話題について、特に困っていることや報告すべきことは自分の意思を的確に伝えることができるようになっている。

②手立てについての評価・課題

- ・日常生活の中で会話を多くするという手立てを設定したことで、本人の思いや考えを伝える場面が徐々にではあるが増えてきた。
- ・会話の糸口として本人の興味ある話や身近な話題を取り入れることで話しやすい環境ができ、コミュニケーションの向上に向け効果的だったと思う。
- ・学校や家庭での出来事など報告するよう指導してきたが、報告する場面設定を明確にできなかったこともあり、定着することができなかった。今後、手立ての中でより具体的に報告場面の設定していくことが必要と思われる。

③指導を通して生活力に関する実態の変化

- ・普段から内向的な側面があり、積極的に人と関わりを持つことは少ないが、集団生活の中で必要な場面では意思表示をすることができる。また、自分が興味を持ったことに対して進んで報告する場面が見られてきた。後期の室長になったことで部屋の仲間に指示を出し、取りまとめ役としても頑張っている。今後も色々な経験を積むことでコミュニケーション能力も向上し、生活力が身についていくと思われる。

寄宿舎研究 各グループ資料

グループ名 B グループ (伝える力)

対象生徒の実態 自主的に挨拶が難しい。

指導の手立て (個別の指導計画より)

- ・職員の方から積極的に声をかけて、起床時や登校、下校のときなどの節目の挨拶が定着するように、指導する。

観点に関する実態

- ・トラブルがあったときや買物に行きたいとき、電話をかけたいときなどは、自分から職員に伝えることができる。
- ・朝の挨拶や下校してきたときなどは、自主的に挨拶することがなく、職員から先に挨拶をしてそれに応えるという実態である。

観点に関しての指導の手立て

- ・初めは職員の方から日課の節目などに意識的に挨拶をして、本人がそれに対して必ず応えるように指導する。
- ・職員からの働きかけを多くして、話しやすい環境を作っていく。
- ・徐々に、受動的な挨拶の仕方から能動的に挨拶できるように（顔を見たらおのずと挨拶の言葉が出るように）習慣づける。

指導経過(中間)

①指導の実際

- ◎手立てに沿って具体的にどのように指導を進めたか
- ◎手立ての他に課題解決に向け、指導したこと

- ・下校後や就寝前、帰省時など挨拶が必要な場面では、職員の方から挨拶をさせて応えさせる。顔を見ないときには立ち止まらせて顔を見て挨拶するように指導した。
- ・本人が興味を持っていることや楽しいことに関しては、口数も多く話しやすい環境にはなっている。
- ・顔を見ても挨拶をせずに通り過ぎていくことがほとんどで、能動的に挨拶をすることはなかった。

②実態の変化

- ◎指導を行っていく中で観点（相手や場を理解する）に関わり、変化した点
- ◎改善された点、残された課題

- ・指導の中では特に変化は見られなかった。
- ・今後も職員の方から意識的に挨拶をする。顔を合わせたときには、本人から言葉が出るように待つ、ヒントを出すなどして、自分から挨拶できるように指導する。

③今後の指導

- ◎手立てを評価した上で、指導を継続するか、変えることや加える手立てがあるか

- ・現在行っている手立てだけでは不十分な点がある。
- ・意味がわからないことはできないと言うことがある。挨拶することにどのような意味を持たせていくか、それを本人にどのように伝えていくか、S S Tワークシートの挨拶編を作成してトレーニングを行う。
- ・他の職員にも協力してもらい、必ず挨拶をするように働きかけをしてもらう。
- ・挨拶をしないと周りが不愉快に感じることに、挨拶をされたら必ず返すことに重点をおいて指導を継続する。

指導結果

①手立てに対する生徒の変化

- ・職員からの働きかけを多くすることによって、本人から能動的に会話をしてくる場面も増え、友達とも会話をしている姿も多く見られるようになった。
- ・挨拶については、職員が先に挨拶をすれば返す、顔を見て少し待つと挨拶をすることができるようになっていった。

②手立てについての評価・課題

- ・職員から話しかけなくても、自分から会話をしてることが多くなった。また、最初は自分の興味のある話題が多かったが、会話の回数を重ねていくうちに、色々な話題に発展するようになった。
- ・職員からの発信を多くした結果、親しい職員、また、玄関や早出の職員が立っている場所などで、「行ってきます」「ただいま」は自主的に挨拶をするようになった。

③指導を通して生活力に関する実態の変化

- ・ 寄宿舍の生活の中では、挨拶や会話によって他者とのコミュニケーションをとることができるようになった。
- ・ また、挨拶、会話にとどまらず、職員から保護者への伝言の依頼など、一度の指示で的確に実行することができるようになり、全てのコミュニケーションスキルについて向上が見られた。

寄宿舎研究 各グループ資料

グループ名 C グループ (伝える力)

対象生徒の実態 自分の意見を伝えることが難しい。

指導の手立て (個別の指導計画より)

- ・意見を伝える場を設定して意見を伝える機会を増やす。周りの意見に流されているときは、本人の考えを聞き、伝え方を教えると共に、考えを伝える必要性について話し指導する。

観点に関する実態

- ・断ることが苦手であり、深く考えずに引き受けてしまう。そのため、引き受けたことができなったり、本心ではやりたくないことであることだったりするため、悩む様子や直前になって断ることがある。
- ・会話の内容が理解できていなくても、確認せずに返答することがある。
- ・否定的なことを受け入れることが苦手である。

観点に関しての指導の手立て

- ・室長として、分担を考えるなど考える場面を設定する。
- ・日常の会話から、気持ちと発言にずれがないか確認し、適切な表現について指導する。
- ・会話の内容についてどの程度理解できているか、会話の後、本人に内容を説明させて確認する。
- ・本人の認識をワークシートを用いて探る。

指導経過(中間)

①指導の実際

- ◎手立てに沿って具体的にどのように指導を進めたか
- ◎手立ての他に課題解決に向け、指導したこと

- ・本人との日常的な会話の中で、本人の気持ちや考えを話させるようにした。進路や実習などに対する悩みや自分の考えを伝えることができていた。
- ・友達との関わりでトラブルがあり、本人の考えを聞くと、周りに流され、必要のないことまで発言していることがあった。自分の考えや立場に合わせた適切

な発言について指導した。

- ・友達を会話をしている中でふざけて不適切な発言をすることがあった。発言について振り返らせると、不適切であり、必要のない発言であったことを考えることができていた。
- ・室長を任せ、部屋の活動の際は中心になって声かけや指示をするように話して、活動を行わせた。積極的に周りに働きかけて活動していたが、下級生に対して強い言葉で指示をしていることがあった。本人としては、適切な指示の言葉が分かっていなかったため、適切な言葉を教え、その後は問題なくできていた。
- ・ワークシートを用いて表現についての本人の考えを探った。本人としては、嫌なことをされたときに嫌であると伝えることについては苦手意識は持っておらず、適切な対応を選ぶことができていたが、頼まれたときには、断ると相手に悪いと思い、適切な対応がとれないことがあることが分かった。

② 実態の変化

◎指導を行っていく中で観点（相手や場を理解する）に関わり、変化した点

◎改善された点、残された課題

- ・相談、報告については、しっかりと考えて発言しようとする様子が見られ、適切に伝えることができるようになったが、雑談の中では、内容と合わない発言が見られることや、適切ではない言葉遣いのときがある。
- ・断ることが苦手である点については、断ると相手に悪いとしか考えておらず引き受けている。断らなかったことで、どのような事が起こるのか、自分にできるのかなどを考えるには至っていない。その点については、深く考えて返答するということや、自分の気持ちの伝え方について課題が残る。

③ 今後の指導

◎手立てを評価した上で、指導を継続するか、変えることや加える手立てがあるか

- ・会話について考えて発言する意識がついてきているが、定着するよう、本人の気持ちと発言にずれがないか確認し、適切な表現について継続して指導する。
- ・ワークシートにより、考えを整理することができ、何が起因するのか理解が深まった。適切な表現や発言についても指導でも、ワークシートを活用していく。
- ・発言だけでなく、行動についても振り返り、深く考えることに結びつけて指導する。

指導結果

①手立てに対する生徒の変化

- ・場当たりの発言が少なくなり、考えて発言するようになった。
- ・考えて発言するようになったことで、自分の思いや考えと発言のずれはなくなっている。
- ・順序立てて説明できるようになっている。

②手立てについての評価・課題

- ・日常的な会話の中で考えて発言するということを頻度高く伝えたことから、意識する様子が見られ、徐々に身に付いてきていた。
- ・断ることが苦手という実態があったが、ワークシートに取り組むことで、断ることにより相手に悪い思いをさせるという考えや、断らないことが良いことであるという考えを持っていることが分かり、自己理解を深めた。
- ・会話の内容が趣味に関することが多く種類が少ないので、目上の相手と話す内容を増やす必要がある。

③指導を通して生活力に関する実態の変化

- ・行動面においても、考えてから行動する様子が見られた。
- ・余暇の過ごし方も、やることが立て込んでいるときは、優先順位を考えながら活動したり、体が疲れているときは、早めに休むなど、事後のことを考慮しながら計画的に過ごすことができるようになった。
- ・帰省中の買物で、欲しいものや必要なものを考え、計画的に使うことができていた。

寄宿舎研究 各グループ資料

グループ名 D グループ (伝える力)

対象生徒の実態 会話内容の理解が難しい。
発言に自信がないため、積極的に関わることが難しい。

指導の手立て (個別の指導計画より)

- ・会話の内容が分からないときには分からないと伝えること、自分の発言に自信がなくても、間違っていて良いからまずは自分の発言をすることを指導する。

観点に関する実態

- ・会話の中で、話の内容が理解できていないことを相手に伝えることが難しい。
- ・同年齢のグループの中で、積極的に発言をすることが難しい。
- ・自分の発言に自信がないため、積極的に会話に参加することが難しい。

観点に関しての指導の手立て

- ・分からないことは恥ずかしいことではないこと、分からないままにしている方が後になって自分が困ることを伝え、分からないことをその都度聞くように指導する。
- ・会話の中で本人が理解できていないような様子があるときには、職員の方から内容を理解できているか確認し、理解していないときには内容をかみ砕いて伝え、自分から聞くように指導する。

指導経過(中間)

①指導の実際

- ◎手立てに沿って具体的にどのように指導を進めたか
- ◎手立ての他に課題解決に向け、指導したこと

- ・同年齢のグループの中で聞き役になることが多く、発言がないときには職員の方から話を振り、会話に参加するよう促した。
- ・会話の中で理解できていないような表情をしていたとき、曖昧な返事のみをしていたときには会話の内容が理解できているか聞き、わからないときには内容をかみ砕いて伝えた。

②実態の変化

- ◎指導を行っていく中で観点（相手や場を理解する）に関わり、変化した点
- ◎改善された点、残された課題

- ・仲の良い友達に対しては、自分の意見を言えるようになってきたが、あまり話したことがない相手と話すときは発言が減る傾向にある。
- ・遠慮なく意見を言える相手に対して、相手の気持ちを考えない不適切な発言をすることがあった。

③今後の指導

- ◎手立てを評価した上で、指導を継続するか、変えることや加える手立てがあるか

- ・今後も継続して指導を行う。
- ・不適切な発言をしたときにはその都度相手の気持ちを考えること、思ったことをそのまま発言するのではなく、相手の気持ちを考えた上での発言をするように指導していく。

指導結果

①手立てに対する生徒の変化

- ・会話の中で、分からないこと、言葉の意図が理解できていないときには、自分から職員にどういう意味だったのか、こういう内容で合っているのか、と聞くことができてきた。また、作業の内容などについては、同学年の生徒と気兼ねなく話すことができていたが、作業などに関係ない話では発言が少なくなってしまう。
- ・不適切な発言をしたときにその都度指導しているが、本人の中で仲の良い相手だから大丈夫という気持ちがあるような様子が見られる。

②手立てについての評価・課題

- ・職員に対しては分からないことを伝えられるようになり、自分なりに理解しようと相手の発言、会話の内容について考えるようになった。同学年の生徒には話題によっては発言できないことがあるため、継続した指導が必要である。
- ・相手を見て不適切な発言をすることがあり、指導しても本人の中でまだ改善の意識が見られていないため、今後も継続した指導が必要である。

③指導を通して生活力に関する実態の変化

- ・ 同学年の生徒と、作業の話では自分の意見を伝えることができている。
- ・ 不適切な発言についてはまだ変化が見られないため指導を継続する。

寄宿舎研究 各グループ資料

グループ名 E グループ (伝える力)

対象生徒の実態 返事や挨拶をする際にうなづくだけで済ましてしまうことがある。

指導の手立て (個別の指導計画より)

- ・挨拶や返事の場合でその都度言葉がけを行い、できているときは称賛することによって自信を高めていけるよう指導する。

観点に関する実態

- ・自分の思いが伝えられず、職員の介入が必要なときがある。
- ・友達との交流が持てずに、一人で過ごすことが多い。
- ・泣くことが多いが、なぜ泣いているのか伝えることが難しい。

観点に関しての指導の手立て

- ・職員と相手にどのように伝えたら良いか考える機会を設け指導する。
- ・職員と一緒に相手に自分の思いを伝える練習をしていく。
- ・泣いている際は言葉で伝えることが難しいときは、ノートに書かせるなど自分の思いを伝える手段を指導していく。

指導経過(中間)

①指導の実際

- ◎手立てに沿って具体的にどのように指導を進めたか
- ◎手立ての他に課題解決に向け、指導したこと

- ・相手に伝えられずにいる場合は、どのように伝えるか職員と考える場面を作り、指導してきた。
- ・職員に他者への不満を話した際や、他者と協力して行う作業で困ったことがある際などは、自分で相手へ伝えるよう指導してきた。

②実態の変化

- ◎指導を行っていく中で観点(相手や場を理解する)に関わり、変化した点

◎改善された点、残された課題

- ・友達と関わりをもって一緒に過ごすことができた。
- ・慣れた相手には自分で意見や考えを伝えることができるが、先輩や普段関わりの少ない生徒へは伝えられずにいることがあった。
- ・挨拶や返事を自発的に行う気持ちは高まっているものの、声が小さかったりうなずくのみになってしまうことがある。

③今後の指導

◎手立てを評価した上で、指導を継続するか、変えることや加える手立てがあるか

- ・相手へ伝えられずにいる場合は、どのように伝えるか職員と一緒に考え、自分で伝える経験を増やし自信をつけてく。
- ・挨拶や返事の声が小さかったり、うなずくのみになっている際は、言葉がけを行う。また、大きな声で挨拶や返事ができた場合は称賛し、意欲を高めていく。

指導結果

①手立てに対する生徒の変化

- ・慣れている場面では自信を持って積極的に大きな声で発言している。初めての場面など不安が強い際は、声が小さくなったり、うなずくのみになってしまったり、指示を待って立ち尽くしていることが、継続して見られている。言葉がけを行うと自分から行動していたが、別の場面になると戸惑う様子が見られ、自信をつけるには至らなかった。

②手立てについての評価・課題

- ・自分で行い称賛される場面を増やすことで、自信をもって行動することのできる場面が増えてきている。しかし、不安な場面では職員からの指示や言葉がけを待っている様子もあるため、より主体的な行動を多くしていけるよう、すぐに言葉を掛けず事前の意識付けを行うなど、実態の変化に伴い指導方法を検討する必要がある。

③指導を通して生活力に関する実態の変化

- ・自信を持って行動することのできる場面が多くなることで、日常生活の中でも率先して行動したり、周囲へ自発的に働きかける場面が多くなってきている。初めての場面では戸惑う様子もあったが、自分できっかけを見つけようと努力してい

る様子が見られた。